広報市民リポーターだより No.9

中学生の問題行動を憂う

リポーター　熊谷　勝郎さん（田代町3区）

最近、中学生の問題行動（ナイフを使った傷害事件、校内暴力、不登校、いじめ、援助交際など）が連日報道され、市民すべての人が憂慮していると思います。これらは、単に父兄と学校だけで解決できる問題ではなく、社会全体の責任で対処すべきであると思います。また、都市化の進展、核家族化、経済万能主義などに由来した社会文化のひずみが一部の子供に表現されていると思えるので、私としては、市民の皆さんがどの子もわが子と思い、深い関心を持って、地域の子供を見守り、育てていただきたいと願うものです。

そのような観点から、大館市小中学校校長会会長、成田純一先生（現城西小学校校長）から教育現場での取り組み、所感をお聞きしました。

小学生にも問題行動が多いと言われるが、その対応は・・・

大館市では特に憂慮されるほど多い件数ではないが、問題と思われる行動がないというわけではありません。過保護一辺倒だと中学校に入学して、授業にスムーズに移行できにくいものです。そのため、小学校高学年では、中学校に入っても生徒が独自に学習課題に取り組めるよう「自立性」の確立を図っています。（複式学級の生徒は自立性が必然的に育っているようです。）

家庭の問題は別として、中学校内に原因があるとすれば・・・

一例として、小学校で過保護な状態で過ごしている子供が、突然、多数の小学校から集まった大規模集団の中学校に組み込まれたとします。すると、新しい友達関係、上級生の中でのクラブ活動、また、教科単位ごとの先生の授業など、環境の大きな変化に対応するために、「我慢」「協調性」「自立性」が強く求められます。しかし、現代っ子にとって、これらに適応していくことは非常に難しいことでもあります。乗り越えて進めない子供たちは、学校嫌いとなり、加

成田校長先生（左）からお話を伺う熊谷リポーター（右）